

OUHS  
OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES  
スポーツ

# 大体育大

第33号

発行責任者

大阪体育大学スポーツ局  
局長 穴倉保雄  
編集長 和泉かよ子  
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1  
電話 (072) 479-3900  
FAX (072) 453-8818  
協力=教育後援会・校友会

# 100

NAMISHO GAKUEN  
100th Anniversary

格闘技クラブのヒーロー  
角野晃平、卒業

ロングインタビュー  
「僕の体と力を  
人命救助に使いたい」

女子  
ハンドボール

# 史上初

# 達成 連覇

## 昨年に続き優勝記録更新

女子ハンドボール部は初戦から優勝を飾り、11月12日の決勝戦、筑波大学戦に臨んだ。試合開始の秒で中山佳穂(体育3年)がシュートを決め、勢いに乗った大体育大は次々と得点を重ね、前半を19-0で折り返した。後半の序盤は筑波大のディフェンスに阻まれるが、ゴールキーパーの榎和奏(同4年)がフライングセーブを連発しチームの士気を高めた。終盤は攻撃力が盛り返し、応援からカワントダウンが始まった試合終了直前に、榎本響が締めくくりにシュートを決め、最終的に31-19の大差で筑波大を下した。昨年の大会、女子ハンドボール部は6連覇を達成し、日本体育大学の持つインカレ5連覇の記録を44年ぶりに塗り替えた。今年はその更新し、前人未踏の領域を突き進んでいる。

決勝戦の後、榎本繁生監督は「連覇と言っても選手は毎年入れ替わっている。今年はまだ新しいチームでの挑戦だった。今のチームは、爆発力のないスロースターター。選手たちはインカレ7連覇という重圧をかき苦しんだ1年だったと思う。一戦一戦を重ねることに団結を強め、トータルでの成長を見せてくれたと話した。下河内洋平・S&Cコナは「体操選手のよくな身体コントロール能力

力、投擲選手のようなフワフワな発揮能力、卓球選手のような敏捷性、これらを手に入れ、試合の最後まで低下しないのを旨として指導してきた。1年生の時は心配だった選手が日々のトレーニングでもたくましくなってきた」と喜びをかみしめた。

キャプテンの中山佳穂(同4年)は、「大会前日に榎本先生から『6連覇はあくまで先輩たちが作り上げた結果、それに因り自分たちの戦い』と、気持ちに響いた」と話している。榎本は「インカレ7連覇という形を報われたらうれしい」と重圧を乗り越えた経緯を語った。中山は「今大会は持ち味のロングシュートを左右に打ち分ける精度が悪かった。7連覇できたことにホッとしているが、私自身は4年生になる来年が勝負の年だと思っている」と気を引き締め、「試合に出ることができない部員も含め、全員が大切な存在である」と、全員が同じ目標に向けて取り組んでいく大切さを後輩に伝え、強いチームを作っていきたい」と抱負を述べた。

表彰では、優秀選手賞榎和奏、秋山静香、相澤菜月(体育3年)、中山佳穂、尾辻素乃子(同2年)が選ばれ、榎本監督は優秀監督賞に輝いた。



# 重圧を乗り越えて快挙達成

高松宮記念杯女子第55回全日本学生ハンドボール選手権大会 2019年11月8日~12日 宮城県利府町・セキスイハイムスーパーアリーナ「グランディ21」ほか

榎和奏(体育4年)

相澤菜月(体育3年)

秋山静香(体育4年)

中山佳穂(体育3年)

尾辻素乃子(体育3年)

女子  
ハンドボール

# 日本選手権決勝で惜敗…泣いた、笑った、抱き合った!!

2019年12月24日~28日  
広島市・マエダハウジング東区スポーツセンター

第71回日本ハンドボール選手権大会

2019年11月に全日本インカレで7連覇を達成した大阪体育大学の女子ハンドボール部は、同年12月、学生チャンピオンとして第71回日本ハンドボール選手権大会に出場した。インカレ優勝の勢いに乗って、強豪の社会人チームに3勝。北國銀行と決勝戦で対戦した。学生チームの決勝戦出場は、東京女子大学が決勝進出して以来、33年ぶり。北國銀行とは大接戦を繰り広げ、27~29で敗れたが、優勝まであと一歩の輝かしい準優勝をつかみとった。

## かけがえのない

## 大体大史上初の準優勝

## 学生チームの決勝進出は33年ぶり

### 強豪、北國銀行相手に

### 勝利まであと二歩の大接戦

大体大は初戦で「HC名古屋」に31~17で差をつける勝利を収め、2回戦では社会人チームの中でも強豪の「オムロン」に27~26と僅差の勝利を挙げ、3回戦は「飛騨高山」に27~25と僅差で勝利した。4回戦は「北國銀行」に27~29と敗れたが、優勝まであと一歩の輝かしい準優勝をつかみとった。

堅守に阻まれる。前半は11~5とリードを前半を折り返す。後半は一進一退の攻防が繰り返され、大体大は前半のリードを保ち33~26で勝利した。学生チームとして33年ぶりに出場した決勝戦の相手は、大体大OGの多い北國銀行。さながら先輩との対決となった。大体大は果敢にゴールを狙うが、北國銀行の

わいながら、決勝戦を迎えた。苦戦を語り、「不安もあったが、こんな大舞台で自分たちでやることをやり切りたい」と語り、先陣を相手に戦い切ることができたと思うと、負け惜しみのベストを返した。完璧なプレーを演じた。エースの中山佳穂(同3年)は、大学生になって今年が1番つらかったと振り返る。学生チームとしてはトップレベルのパフォーマンスを前年のように求められる重圧の一方、楠本(繁生)監督は「今まで一番弱いチーム」と叱咤されてきた。最後は「楠本」先生に何を言わなければならないかと、試合を振り返り、全員が



決勝、ゴール前の激しい攻防



中山佳穂(体育3年)

主将の秋山静香(体育4年)



決勝終了後、椅子から立ち上がれない楠本監督の周りに選手が集まる



力を出し切った、楽しかった!!



あと一歩だったのは、悔しい!

男子  
ハンドボール

# 無念のベスト8

西日本インカレで大阪体育大学は順調にチャンピオンシップ(ベスト8)に進み、1回戦は42~30で同志社大学を降し、準決勝は29~26で大同大学に勝利した。決勝戦の相手は昨年と同じ福岡大学。昨年は福岡大に負けて準優勝になっただけに気を引き締めて臨んだが、今年も21~27で敗れ、またもや悔しい準優勝となった。選手表彰では、重藤駿介(体育4年)と瀧三千宏(同)が最優秀選手賞に選ばれた。

## 西日本インカレ準優勝

男子第58回西日本学生ハンドボール選手権

2019年8月14日~16日/愛知県豊田市・スカイホール豊田ほか

高松宮記念杯男子第62回全日本学生ハンドボール選手権

2019年11月8日~12日/宮城県利府町・セキスイハイムスーパーアリーナ[グランディ21]ほか



船越海月(体育4年)



浅川律樹(体育3年)



木本尊貴(体育4年)



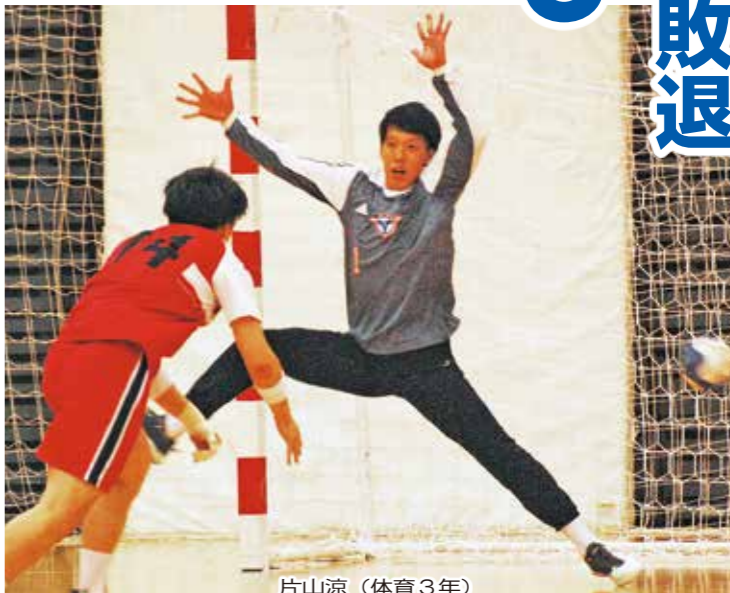
重藤駿介(体育4年)



竹内柗人(体育4年)



瀧三千宏(体育4年)



片山涼(体育3年)

### 【各種競技記録】

▲アラメテ部 (期間中)

- ◆第30回全日本学生ハンドボール選手権大会(8月14日~16日、豊田)
  - 男子 11~2 立飛大
  - 女子 11~1 立飛大
  - 男子 11~4 びわく大
  - 女子 11~9 近畿大
  - 男子 10~6 龍谷大
  - 女子 10~9 龍谷大
  - 男子 9~6 フリスコス
  - 女子 10~9 立飛大
  - 男子 11~8 立飛大
  - 女子 11~8 立飛大
  - 男子 6~9 早稲田大
  - 女子 11~0 龍谷大
- ◆第62回全日本学生ハンドボール選手権大会(11月8日~12日、利府)
  - 男子 11~2 龍谷大
  - 女子 11~1 龍谷大
  - 男子 11~1 龍谷大
  - 女子 11~1 龍谷大
  - 男子 8~7 龍谷大
  - 女子 8~7 龍谷大
  - 男子 9~4 びわく大
  - 女子 9~4 びわく大
  - 男子 7~10 中央大
  - 女子 8~10 星野大
  - 男子 11~6 中央大
  - 女子 9~6 中央大
- ◆新体制
  - ◆第71回全日本学生ハンドボール選手権大会(12月24日~28日、広島)
    - 男子 3~2 近畿大
    - 女子 4~1 龍谷大
    - 男子 2~3 龍谷大
    - 女子 2~3 龍谷大
    - 男子 1~4 龍谷大
    - 女子 1~4 龍谷大
    - 男子 2~3 龍谷大
    - 女子 2~3 龍谷大
    - 男子 3~0 龍谷大
    - 女子 3~0 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
- ◆新体制
  - ◆第71回全日本学生ハンドボール選手権大会(12月24日~28日、広島)
    - 男子 3~2 近畿大
    - 女子 4~1 龍谷大
    - 男子 2~3 龍谷大
    - 女子 2~3 龍谷大
    - 男子 1~4 龍谷大
    - 女子 1~4 龍谷大
    - 男子 2~3 龍谷大
    - 女子 2~3 龍谷大
    - 男子 3~0 龍谷大
    - 女子 3~0 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大
    - 男子 1~2 龍谷大
    - 女子 1~2 龍谷大



**第43回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント**  
 2019年8月29日～9月7日／大阪市・ヤンマーフィールド長居ほか  
**第97回関西学生サッカーリーグ**  
 2019年前期・4月6日～6月9日、後期・9月14日～11月24日  
 大阪市・ヤンマーフィールド長居ほか  
**第68回全日本大学サッカー選手権大会**  
 2019年12月11日～12月22日／東京都調布市・AGFフィールドほか

男子サッカー

# 総理大臣杯3位

## インカレは涙のベスト8

### 関西リーグ連続5回目の優勝!

関西学生リーグ戦の前期をトップで折り返した大阪体育大学は、後期も着実に勝利を積み重ね、22試合16勝2敗4引き分けの成績で、2年連続5回目の優勝を果たした。関西王者の地位を固める一方で、総理大臣杯は準決勝で法政大学に0-1で敗れ、惜しくも3位だった。関西リーグで優勝して関西地区第1代表として出場権をつかんだ全日本大学サッカー選手権(インカレ)では、準々決勝で中央大学に1-6というまさかの大差で敗北。悔しさをバネに奮起を誓うシーズンとなった。

9月5日、総理大臣杯準決勝の法政大戦は突然の雷雨に見舞われ、午後3時半開始の予定が1時間半遅れてキックオフした。前半は押し込まれ、選手は頑張ってきたけれど、今日はシュートチャンスが1回しか作れなかったのが非常に残念とコメントした。

法政大にゴールを決められ、その後、取り返せずに敗戦、3位となった。松尾元太監督は「これまで一試合一試合、選手は頑張ってきたけれど、今日はシュートチャンスが1回しか作れなかったのが非常に残念とコメントした。気持ちを切り替え、9月14日から始まった関西リーグの後期戦では快進撃、後期戦は8勝1敗を引きつけて、12月中、断トツの好成績で優勝を決めた。表彰は、MF田中駿汰(体育4年)が年間最優秀選手賞(関西サッカー協会会長杯)と優秀選手賞を受賞。このほかに優秀選手賞には、DF林尚輝(同3年)、MF西田恵(同4年)、FW林大地(同)が選ばれた。松尾監督は優秀指導者賞、河邊拓己(同)はベストキャプテン、野崎和哉(体育1年)は新人賞に輝いた。また、第30回ユニバーシアード競技大会を日本代表として活躍した大を称え、田中と林大地には関西学生サッカー特別賞が贈られた。



10FW 林大地 (体育4年)



7MF 西田恵(左)と5MF 田中駿汰(ともに体育4年)



20MF 河野崇心 (体育3年)



20MF 河野崇心 (体育3年)



14MF 永吉広大 (体育3年)



3DF 木出雄斗 (体育3年)



6MF 尾田健人 (体育3年)



21GK 泉森涼太 (体育2年)



5DF 大崎航詩 (体育3年)



2MF 有働平 (体育3年)



総理大臣杯3位のメダルを胸に



ベンチも一緒に戦った。左端が松尾元太監督。右から2番目は関西リーグで新入賞を受賞した野崎和哉(総理大臣杯)



4DF 林尚輝 (体育3年)

女子サッカー

# 全日本インカレ3位!

## 準決勝で昨年2位の早稲田大と対戦

### 延長戦の大激戦を戦い抜く

第28回全日本大学女子サッカー選手権大会(全日本インカレ)は、準決勝で早稲田大学と大激戦を展開し、1-2で惜しくも敗れた。インカレ3位となり、選手たちは銅メダルを胸に涙と笑顔が交錯した。

2019年末から始まった全日本インカレでは、12月26日の初戦で四国大会対決。福岡大学に勝利して1回戦に臨んだ四国大会対し、シールドの大坂体育大は初戦、前半はパスがなかなか、四国大会に押し込まれる展開に、これを挽回するべく、後半は流れて一転、訓練を重ねたヘディングシュートは4本成功し、これを要する8本のシュートを決めた。

準決勝の相手は、昨年は準優勝の早稲田大学。前半、今田玲那(体育4年)がシュートを決め、1-1で折り返したが、後半は流れが一変、訓練を重ねたヘディングシュートは4本成功し、これを要する8本のシュートを決めた。



今田玲那(体育4年)



宮本香花(体育1年)



鈴木寧体(体育4年)



田中結実(体育4年)



### 戦い抜いた証のメダルを胸に

**2019年度関西学生女子サッカー秋季リーグ**  
 2019年9月1日～11月10日／大阪体育大学ほか

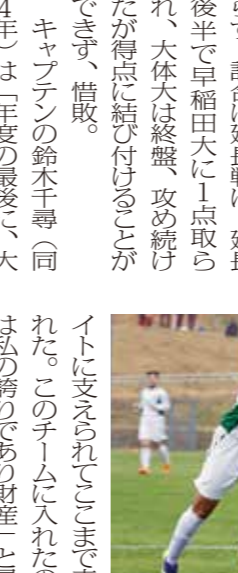
関西学生女子サッカー秋季リーグは7試合し、明治国際医療大学とは1-1で引き分けたが、ほか6試合はすべて勝利。関西女王の座を固めた。

◆試合結果  
 9/1○ 大阪体育大1-0 関西大  
 9/8○ 大阪体育大7-1 追手門学院大  
 9/15○ 大阪体育大3-0 ひろこ成蹊スポーツ大  
 9/22△ 大阪体育大1-1 明治国際医療大  
 10/19○ 大阪体育大3-0 武庫川女子大  
 10/27○ 大阪体育大4-1 聖泉大  
 11/10○ 大阪体育大3-2 姫路獨協大

## 秋季リーグ優勝!

### 春季リーグに続き関西女王

石原監督は「早稲田大は私の誇りであり財産と最後は笑顔だった。4年)は年度の最後に、大体大らしい試合ができたと思う」と言い、自身の学生生活について「後生ながらと比べて、競りながら成長できた。自分自身も成長できた。仲間にも恵まれた。4年間だったと振り返る。得点した今田は、王冠を掴み取るチャンスがあったのに、1点しか取れず、チームの勝利に貢献できなかったのは悔しい」と述べて、大学生活については「楽しんでほしい」と語り、卒業する4年生の思いを後輩たちへ感じ、胸に残してほしい」と奮闘を称えた。



豊田菜(体育4年)



四国大会でシュートを決め両腕を上げる樋口佳那子(体育1年)



四国大会で5得点を決めた井之脇朱音(体育4年)

第28回全日本大学女子サッカー選手権大会

2019年12月24日～2020年1月19日  
 東京都北区・味の素フィールド西が丘ほか

バスケットボール男子

# 関西リーグ戦5位の健闘！ 選手層の厚み増す

関西学生バスケットボールリーグ戦  
2019年9月4日～11月3日／大阪市・フィットネス21東淀川体育館ほか  
第71回全日本大学バスケットボール選手権大会  
2019年12月9日～15日／東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場ほか

関西のリーグ戦は18試合11勝7敗と健闘し、昨年は7位だった順位を5位に上げた。山田友哉(体育4年)を中心に、藤本巧太(体育3年)、池田楓(同)が脇を固める。これに加え今季は、身体能力が優れたアデバンジョ・ウィリアム(体育2年)、巧みなポストプレーが持ち味の中原啓太(同)、身長の高さが武器の志水祐太(同)ら2年生トリオが力を付け、里見龍平(体育1年)も活躍した。

比嘉監督は「選手層の厚くなってきた。この調子でいけばインカレ(日本大学バスケットボール選手権)ベスト8の目標は達成できる」とし、大阪体育大学バスケットを通じて社会と人間力を醸成



関西リーグ・関西大学戦を戦ったメンバー



里見龍平(体育1年)



志水祐太(体育2年)



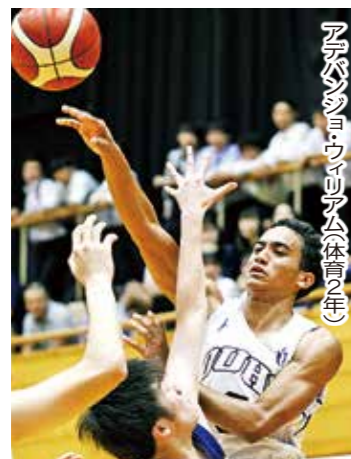
山田友哉(体育4年)



藤本巧太(体育3年)



池田楓(体育3年)



アデバンジョ・ウィリアム(体育2年)



中谷凌一郎(体育4年)



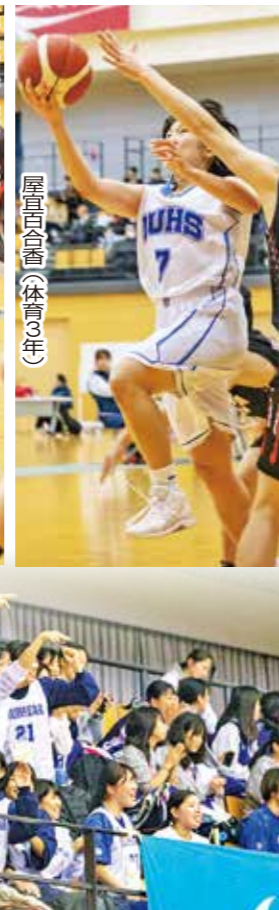
志水祐太(体育2年)



中原啓太(体育2年)

## インカレでは 強豪相手に初戦敗退

関西リーグ戦で、序盤から相手の大東文化大学への対戦に60-35という大差をつけられ折り返す。インカレでは、強豪相手に初戦敗退。大東文化大学は先に行われた「第102回全日本大学バスケットボール選手権」で、優勝を挙げた。インカレでは、大東文化大学は先に行われた「第102回全日本大学バスケットボール選手権」で、優勝を挙げた。インカレでは、大東文化大学は先に行われた「第102回全日本大学バスケットボール選手権」で、優勝を挙げた。



## 勝ち負けは関係ない 試合できるのがうれしい

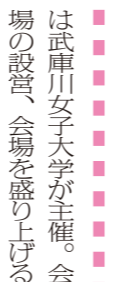
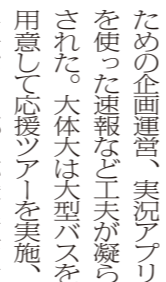
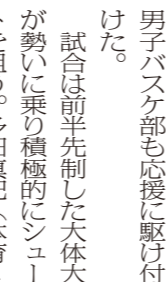
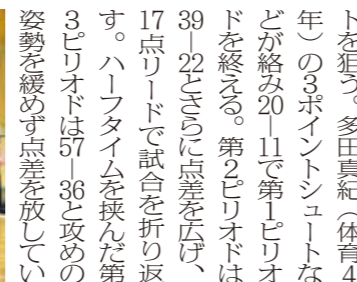
フレンドリーマッチ 2019 大阪体育大学×武庫川女子大学



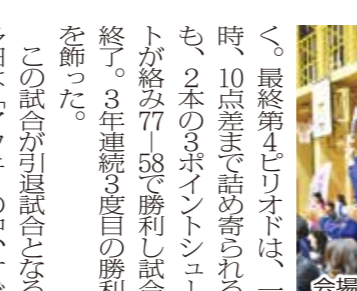
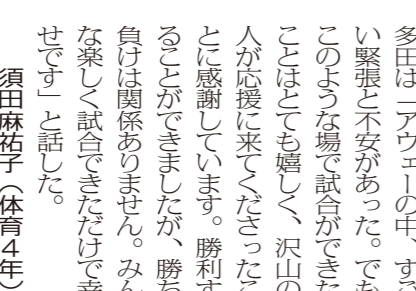
須田麻祐子(体育4年)



円陣を組む選手たち



フリーシュートを決める多田真紀(体育4年)



会場を盛り上げる男子バスケットボール部

## 関西リーグ戦 関西女子学生バスケットボールリーグ戦

# 2連覇目指すも準優勝

2019年9月8日～11月10日／大阪府門真市・東和薬品RACTABドームほか

## インカレ 第71回全日本大学バスケットボール選手権大会

# 2回戦で惜しくも敗退

2019年12月9日～15日／東京都世田谷区・駒沢オリンピック公園総合運動場ほか

バスケットボール女子

昨年は優勝した関西リーグ戦は、宿敵の人間科学大学と最後まで優勝争いを展開。11月20日に行われた大阪体育大学VS人間科学大学のリーグ最終戦は、大接戦。第1Qは21-20と大体大がわずかにリード。第2Qは15-15。第4Qで大体大は逆転し、18-14とリードしたが、第2Qの失点を取り戻せず、65-67の差で負けて涙を飲んだ。



新田桃子(体育4年)

奥村鈴(体育2年)



中村有希(体育3年)

大吉まな(体育1年)



関西リーグ戦で準優勝したメンバー

## The Another Story 寄稿生

2019年12月2日、今年で3回目となる女子バスケットボール部の「フレンドリーマッチ」。

試合は前半制した大体大が勢いに乗り積極的にシュートを狙う。多田真紀(体育4年)の3ポイントシュートなどが絡み20-11で第1ピリオドを終える。第2ピリオドは39-22と27点差を駆け、17ポイントで試合を折り返す。ハーフタイムは57-36と攻めの姿勢を緩めず点差を放して、この試合が引退試合となる。

多田は「アウェーの中、すごい緊張と不安があった。でもこのような場で試合ができたことだけでも嬉しく、沢山の人が応援に来てくださったことに感謝しています。勝利するだけでなく、勝つ負ける関係ありません。みんな楽しんで試合できたので幸せです」と話した。

この試合が引退試合となる。多田は「アウェーの中、すごい緊張と不安があった。でもこのような場で試合ができたことだけでも嬉しく、沢山の人が応援に来てくださったことに感謝しています。勝利するだけでなく、勝つ負ける関係ありません。みんな楽しんで試合できたので幸せです」と話した。

水泳競技

第93回関西学生選手権水泳競技大会(男子) 第55回関西女子学生選手権水泳競技大会

2019年7月26日~28日 大阪市・丸善インテック大阪プール

200メートル平泳ぎ 浅井拓実 金! 200メートルバタフライ 福山傑 金! 400メートルフリーリレー & ともに銀の大健闘

「大学生になってからタイムが伸びる」という評価が定着しつつある大阪体育大学の水上競技部。2019年7月の関西インカレでは、金、銀、銅のメダルを獲得。男子は400メートルフリーリレー(武田力紀1年、丸山康之2年、村田勇輝2年、市川舜明2年)と400メートルドレーリレー(滝澤有哉2年、森圭佑2年)と1年、春岡草太2年、武田力紀)で2位になり、選手層が厚みを増しているのを証明した。



男子200m平1位 浅井拓実(3年)



男子200m平1位 浅井拓実(3年) 男子バタ200m1位 福山傑(4年)



男子バタ200m1位・福山傑(4年)

男子は平泳ぎの浅井拓実(体青3年)が、200mで1位、100mで5位に輝いた。バタフライは福山傑(4年)が200mで見事な1位。背泳ぎでは滝澤有哉が、100mで2位、200mで3位、食い込み意地を見せた。

男子 男子は平泳ぎの浅井拓実(体青3年)が、200mで1位、100mで5位に輝いた。バタフライは福山傑(4年)が200mで見事な1位。背泳ぎでは滝澤有哉が、100mで2位、200mで3位、食い込み意地を見せた。 尾関一将監督は「選手自身に自分なりの泳ぎをしようという意気込みを伝えてきたので、私自身もサポートに合わせた練習メニューを提供している。今年度はみんなよく頑張ったと思う。1人のスター選手に特化するのではなく、全員で切磋琢磨するのが大切だ」と話した。



女子自400m2位、女子800m自3位の佐藤董



女子200m平2位・田代真子(4年)

400メートルフリーリレーは銅に食い込む

自由形の佐藤董(全将、体青4年)が400mで5位、800mで3位を獲得し、安定した実力を見せた。平泳ぎでは田代真子(同4年)が2位の健闘か。400mフリーリレーでは1年生の河岸凜子(体青)が入った構成で3位になり、応援席は大いに沸いた。 浅野晃平コーチは「今年度は大体的に水泳競技部上、最高に近いチームだったと思う。3年生以下も自己ペース



女子400mフリーリレー3位・(右から)佐藤董(4年)、雑賀隆希(3年)、河岸凜子(1年)、丹下明希(4年)



男子100m背2位、背200mで3位の滝澤有哉(4年)



男子100m背2位、背200mで3位 滝澤有哉(4年)



男子400mフリーリレー2位・(右から)武田力紀(1年)、丸山康之(4年)、村田勇輝(1年)、市川舜明(2年)

トを頭にする選手が次々に現れているので、来年度も楽しみたいと話し、自由形の雑賀隆希(体青3年)、背泳ぎの谷向裕(同3年)、吉川奈穂(同3年)、バタフライの山本直(同)、平泳ぎの成能朝陽(体青1年)らの名前を上げた。3年契約で体大に赴任した浅野晃平は「今年度は契約満期となり、来年度は新コーチを迎える。浅野晃平は先中、後輩の厳しい上下関係の中で、つらい練習を耐える日々...そんな練習を振り返った。



大体大の応援団

女子 リーグ戦全敗し2部へ 今季の経験を活かし 1部復帰を目指す



関西インカレの龍谷大学戦



関西インカレの明治国際医療大学戦



関西インカレの関西大戦



関西インカレの大阪市立大学戦

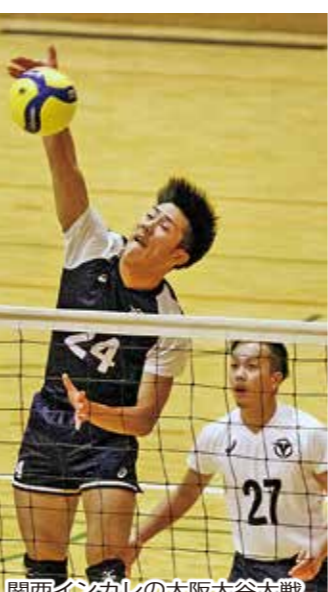
2019年度関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦 2019年9月8日~10月27日/大阪府東大阪市・近畿大学記念会館ほか Phiten CUP 関西バレーボール大学男女選手権大会 2019年11月9、10日/奈良県天理市・天理大学ほか

バレーボール 男子

チーム一丸で 1部リーグ死守



関西インカレの関西大戦



関西インカレの大阪大谷大学戦



チーム一丸で1部リーグ死守 秋リーグ戦の開幕順位は1部9位(12チーム制)。1次リーグは1勝5敗の戦績で、Aリーグ最下位の順位であった。7位から12位の総当たり戦(2次リーグ)では、3勝2敗の戦績で、1部9位を死守し踏みとどまった。 関西選手権大会は、予選ラウンドで大阪市立大学と大阪大学に勝利してBブロック1位で決勝トーナメントに出場。1回戦は210で関西大学に勝利し、2回戦の相手はこの大会で優勝した近畿大学。20で敗れ優勝チームに力差を感ずる。 主将の山田大(体青4年)は「今年度は選手が主体的に練習に取り組んで、この秋リーグ戦の成果が出ず苦しんできたが、最近はずいぶん調子が上がってきた。現在の2年生が主軸になるからには、大いに活躍が期待できると思う」と後輩たちに希望を託した。 浅井正監督は「3年生中心のチームであったが、大事な試合では4年生の控え選手の活躍で、逆転したゲームもあった。レギュラー選手だけの頑張りでなく、チーム一丸となり、1部リーグ死守に繋げた選手だった」とコメントした。

開幕順位は1部10位 ナンセント戦には出場は(12チーム制)で迎えた。 長江昇監督は「今季秋リーグ、10試合はまさかの全敗だった。来季は2部スタートとなる。良い機会になった。結果、関西選手権大会は龍谷大学にまでもこの過程は今後の財産になると思う。この予選ラウンドで、この経験を活かし、来季で明治国際医療大学に210で勝利したが、龍谷大に入りに取り組みたい」と話している。

関西インカレで応援に応える選手ら



ラグビー

# 立命館大に勝利! 入れ替え戦で関西大に敗北 Bリーグに涙の転落

2017年のリーグ戦でAリーグへの復帰を勝ち取り、昨年度からAリーグで戦ってきた大阪体育大学ラグビー部。昨年度は関西大学に1勝してAリーグに踏みとどまり、今季は上位を目指して奮闘した。立命館大学に勝利した後、惜敗した近畿大学戦は1トライ差の大接戦。しかし、入れ替え戦で関西大学に敗北し、Bリーグ転落となった。

前半、15-26と近畿大にリードされた立命館大は、後半に21得点し、36-40のわずかに1トライ差で惜しくも負け。

立命館大、近畿大と地方で勝負を繰り返してきた。11月24日の6戦目は相手は摂南大学が外国人選手の活躍を生かして攻撃を展開した。立命館大は前半は相手の活躍を止めたが、後半は14で前半を逆転されて、14で前半を終了。後半は8分、河野野圭太郎(同2年)がトライを決め、同点に追いついた。立命館大の反撃のハットに飲まれた。立命館大は後半はディフェンスでチャンスを作るが、ものにするのができず、14-42で終了した。

前半、15-26と近畿大にリードされた立命館大は、後半に21得点し、36-40のわずかに1トライ差で惜しくも負け。立命館大、近畿大と地方で勝負を繰り返してきた。11月24日の6戦目は相手は摂南大学が外国人選手の活躍を生かして攻撃を展開した。立命館大は前半は相手の活躍を止めたが、後半は14で前半を逆転されて、14で前半を終了。後半は8分、河野野圭太郎(同2年)がトライを決め、同点に追いついた。立命館大の反撃のハットに飲まれた。立命館大は後半はディフェンスでチャンスを作るが、ものにするのができず、14-42で終了した。



立命館大(左)と近畿大(右)の激しい争奪戦。立命館大は後半に挽回を図るが、結果は1トライ差で惜しくも負け。

## PLAY FOR HEARTの精神でAリーグへの復帰を誓う



ムロオ関西大学ラグビーAリーグ 2019年8月31日~11月30日/滋賀県東近江市・布引運動公園陸上競技場ほか



前半トライを決めた森本里也(体育4年)



田中晴哉(体育3年)



選手入場。立命館大の先頭は主将の山本真之介(体育4年)

### 中谷誠監督のメッセージ

2019年度シーズンご支援、ご声援ありがとうございます。

立命館ラグビー部へラクロス軍団は2019シーズンスローガンを「熱く燃え滾る」という意味を含め「BLAZING」とし、始動しました。春季トーナメントは大差による全敗8位となり、W杯でシーズンが早まることにより、夏合宿を取り止めて夏季遠征に切り替え、慶応大学との合同練習、セコムとの練習試合など終ってシーズンに臨みました。

シーズンは「関西大学ラグビーAリーグ」に挑み、ディフェンス、タックル力が日増しに良くなり、立命館大学戦に31対22で勝利。次戦の近畿大学戦は36対40の大接戦でした。結果1勝6敗、8位となり入替戦出場、昨年同様、追われる立場として関西大学戦を戦い、21対43で敗れてBリーグ降格という非常に残念な結果として終わりました。

結果が全てと言われますが、当初のチーム状態から考える、最後まであきらめない姿勢は素晴らしい。チームの試練と共に成長がありました。歯を食いしばり、責任と誇りを胸に努力を重ね、自ら考え判断し行動する人として、人間力も成長してくれました。築き上げてきたこの1年の証はまさに、立命館ラグビー部の歴史に刻まれるものであると感じています。

2020年は新たな試練に負けたくない「準備」を行い、「One Team」となって戦っていきたく思います。



中谷誠監督



坂谷敦勢(体育3年)のドリブル



主将の山本真之介(体育4年)



立命館大の攻撃を止めた近畿大の選手



立命館大の攻撃を止めた近畿大の選手

男子硬式野球

## 秋は4位 春秋連覇ならず

2019年度阪神大学野球連盟秋季リーグ

2019年8月31日~11月7日 大阪市・南港中央公園野球場ほか

2019年度の阪神大学野球連盟秋季リーグ戦、大阪体育大学は13試合6勝7敗で、順位は4位だった。春季リーグは5季ぶり38回目の優勝を果たしたが、春秋連覇は逃した。しかし、最後の最後まで優勝争いから健闘。選手の表彰では捕手の出雲亮(体育4年)が敢闘賞を受賞した。

10月14日、秋季リーグ最終戦である第5節の対戦が大阪府住吉区の南港中央公園野球場で行われた。1試合目、大阪産業大学が甲南大学に勝利し、立命館大学の可能性は消滅。2位をかけた立命館大学戦に臨んだ。初回、先行は立命館の攻撃。

学生寄稿

### 最後まで優勝争いにかからむ

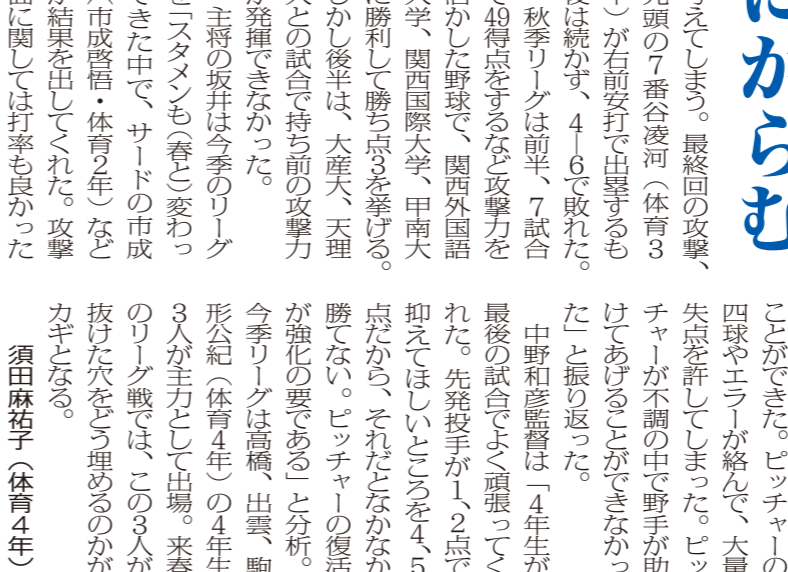
四球や安打で、死満塁となり、5番丸山(体育3年)の適宜右安打で先制。その後、押し出し四球でさらに1点追加する。しかし、その裏、立命館の攻撃、6番大石航輝(立命館)の満塁弾など計5本の安打に失策が絡み、4-0で先行は立命館の攻撃。表には、走塁を活かした好機づくりを試みるも、捕手石原貴規(立命館)の強肩に阻まれる。七回、死満塁の場面から、森山代わり位田英介(体育1年)がマウンドに立つ。代打の馬場雄一(立命館)を抑えることができず、得点を返す。立命館は、走塁を活かした好機づくりを試みるも、捕手石原貴規(立命館)の強肩に阻まれる。七回、死満塁の場面から、森山代わり位田英介(体育1年)がマウンドに立つ。代打の馬場雄一(立命館)を抑えることができず、得点を返す。立命館は、走塁を活かした好機づくりを試みるも、捕手石原貴規(立命館)の強肩に阻まれる。七回、死満塁の場面から、森山代わり位田英介(体育1年)がマウンドに立つ。代打の馬場雄一(立命館)を抑えることができず、得点を返す。



立命館大の攻撃。同回、本塁打を放つ坂井博史(体育4年)



立命館大の攻撃。同回、本塁打を放つ坂井博史(体育4年)



立命館大の攻撃。同回、本塁打を放つ坂井博史(体育4年)



立命館大の攻撃。同回、本塁打を放つ坂井博史(体育4年)

女子硬式野球

## 関西女王の座を奪還!

2019年度関西女子硬式野球リーグ(ラッキーリーグ)

学生寄稿

### 2年ぶり2度目

2019年度のラッキーリーグ、大阪体育大学は予選リーグを3位で通過。決勝トーナメントの初戦で福知山成を1-0で制し、準決勝で立命館を1-0で破り、決勝で立命館を1-0で破り、2年ぶり2度目の優勝を達成した。

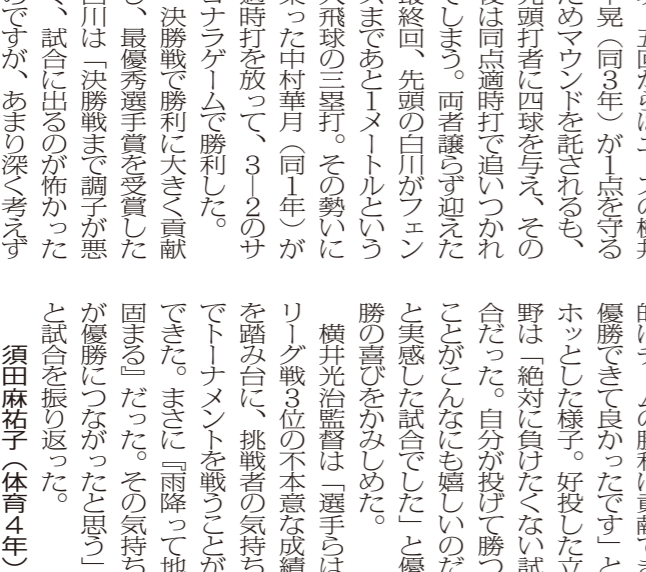
準決勝をコールドゲームで勝ち、大阪体育大学は予選リーグを3位で通過。決勝トーナメントの初戦で福知山成を1-0で制し、準決勝で立命館を1-0で破り、決勝で立命館を1-0で破り、2年ぶり2度目の優勝を達成した。



決勝で履正社RECTOVENUSに勝利



立野歩佳(体育2年)



立野歩佳(体育2年)

陸上競技

# 投擲競技で7人入賞 やり投げの坂本達哉2位

第88回日本学生陸上競技対校選手権大会

2019年9月12~15日  
岐阜市・岐阜メモリアルセンター長良川競技場

天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権(全日本インカレ)が2019年9月12日~15日、岐阜市の岐阜メモリアルセンター長良川競技場で行われ、大阪体育大学から29人の学生が出場し、投擲競技で7人が入賞(8位以内)した。

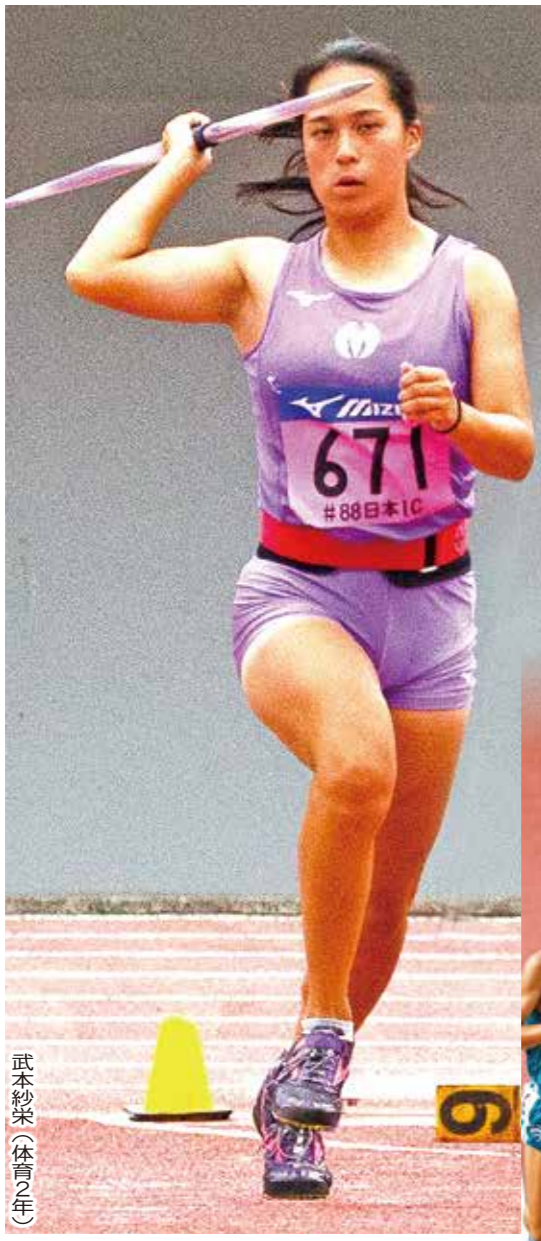
やり投げ男子では、坂本達哉(大学院1年)が75・38mを飛ばして2位石坂力成(体育4年)が73・01mで4位になった。やり投げ女子では武本紗栄(同2年)が54・68mで4位、ハンマー投げは、男子は吉野健太(大学院2年)が64・47mで4位、女子は青柳葉(体育3年)が57・05mで5位、高橋沙湖(同4年)が53・70mで8位、砲丸投げ女子の田村澗孔(同)は14・28mで7位に入賞した。栗山佳也部長は「陸上の全日本インカレは、数年前、標準記録が上昇しているうえ、出場者も1種目30人平均に絞られて、出場者が厳しくなっている。その中で、大抵から29人も出たのは喜ばしい限り。坂本君を筆頭に7人が入賞したのは、陸上部選手諸君の日頃の努力の賜物。選手を通じてフィジカル面はもちろん、メンタル面もしっかり鍛え、後に活かしてほしい」と選手らを称えた。



坂本達哉(大学院1年)



石坂力成(体育4年)



武本紗栄(体育2年)



大坂祐輝(体育3年)



女子4×100mR予選

- 大阪体育大学の入賞者記録
- 男子やり投げ
  - 4位 坂本達哉(M1年) 75・38m
  - 4位 石坂力成(体育4年) 73・01m
- 女子やり投げ
  - 4位 武本紗栄(体育2年) 54・68m
  - 4位 吉野健太(同M2年) 64・47m
  - 5位 青柳葉(体育3年) 57・05m
  - 8位 高橋沙湖(体育4年) 53・70m
- 女子砲丸投げ
  - 7位 田村澗孔(体育4年) 14・28m

武本は「自分自身ではいろいろ考え過ぎました。4投目は初心に立ち返って思い切り腕を振ると集中した肩の強さを活かして、安定した成績を残せようという取り組み」。



武本紗栄(体育2年)

坂本は「この大会に向けて体調を整えてきたので、最後の最後まで逆転された。優勝できなかったのは残念。今後は東京オリンピックの標準記録を目標に、精一杯頑張ります」と話した。



坂本達哉(大学院1年)

関西インカレに続いて自己ベストを更新した青柳は「今年度は記録が伸びた。自信につながった」と手ごたえを感じていた。高校2年の時に手を負傷して砲丸投げからハンマー投げに転じた吉野は「今回のインカレは追われる立場になったけれど、実力が出し切れなかった」と表彰台を逃した無愛語った。



青柳葉(体育3年)



## 全国3位!!

### 10年ぶりに4強入り

10年ぶりのベスト4入りを果たした軟式野球部女子

#### 軟式野球女子

厚かった8強の壁を突破した。合同チームを含め19チームが出場した第33回全日本大学女子野球選手権大会で、大阪体育大学はチーム力となって3位を勝ち取った。エースの中村紗恵(教育4年)と、捕手のルッキー、山根礼奈(同1年)のバッテリーが優秀選手に選ばれた。

#### 第33回全日本大学女子野球選手権大会

2019年8月23日~29日  
富山県魚津市・桃山野球場ほか



3位の表彰を受ける  
多久真純主将(体育4年)

強敵ぞろいブロックに入った大体大は2回戦から登場。エース、中村が早稲館大学を5回までノーヒット・ノーランに抑え、6回に安打を許したものの、毎回三振10、三塁を踏ませず完封した。打線は活気があったが、6回2死3塁から野尻ひなの(体育4年)が遊撃適時打で先制、森崎怡美(同)、宇都宮和(体育2年)が敬遠を誘ってこの回、大きなリードをものにした。

ヤマ場は準々決勝の早稲館大学戦。これまでの経験から、試合巧者の至学館大はしっかりと苦手を相手。案の定、先発の種村夕香(同3年)が初回、3点本塁打を浴びて嫌なムードが漂ったが、大体大は打線が奮い立って暗雲を吹き飛ばした。その裏、蔵野達香(同2年)が左越えに2点本塁打を放ち、二回には、野尻の左前打を足場に打者1人を送る猛攻で7点を加えて一気に逆転。中村に続いて10-5で快勝した。

準決勝は優勝20回を誇る日本体育大学。6回までは4-5と競り合っていたが、七回に福井、中村の投手陣が崩れ、本塁打を含む9長短打を浴び、大量12点を献上して万事休す。失策や四球と負の連鎖も痛かった。

最終日は東京女子体育大学と3位決定戦を予定したが、雨天決戦しか出来ず、大体大は東京女子大と3位を争った。

2019年10月17日、大阪芸術大学で予選が行われた5チームによる秋季リーグ戦に出場。今季は4位に終わった。



## 演技競技で全国大会3連覇 試合競技で福岡が3位に

### 寄稿 学生

なぎなた

# V 3 連覇

第58回全日本学生なぎなた選手権大会

2019年8月11日  
埼玉県入間市市民体育館

第58回全日本学生なぎなた選手権大会が8月11日、埼玉県入間市の市民体育館で行われた。2連覇中の演技競技(2人1組で技の正確さを競い合う)において、大仲麻友(体育3年)、福岡歩(体育4年)組が優勝し、大阪体育大学は3連覇を果たした。試合競技(防具を付けて定められた打突部位を確実に早く打突することを競い合う)団体部において2回戦敗退、同じく試合競技、個人試合において福岡歩が3位という結果になった。

演技競技では3連覇への挑戦となりプレッシャーもあったが、沢山の先生方、卒業生の先輩方にご指導いただき、自信を持って大会に臨んだ。3回戦の相手、鹿屋体育大学は実力のあるペアだったが、接戦で勝利した。また、初戦から決勝戦まで集めて一戦一戦戦むことができ、本領発揮することができ、優勝に繋がった。

団体試合では、2回戦で昨年度優勝校の鹿屋体育大学と対戦した。試合時間3分間を集中して駆け引きをし、勝負を決めたいと臨んだが、スネを引かれて敗退した。今年度は、大体大なぎなた部創部50周年の節目なので、

将敵・大将戦を取り返すことができなかった。個人試合では、福岡が3位に入賞した。団体試合で敗退した悔しさを晴らすと決め、個人試合に臨んだ。準決勝戦で別府大学の川野柚奈選手と対戦した。試合時間3分間を集中して駆け引きをし、勝負を決めたいと臨んだが、スネを引かれて敗退した。今年度は、大体大なぎなた部創部50周年の節目なので、



大阪体育大学